

京都祇園の芸者細見 『祇園細見芸者銘鑑 全盛糸音色』
ぎおんさいけんげいしやめいかん ぜんせいいとのねいろ

鍛治宏介・酒井 光・浦あゆみ・岡 颯馬・唐沢むつみ
水田健斗・山田実李・吉田茉友・富岡尊羅

本稿は、京都祇園の芸者細見 『祇園細見芸者銘鑑 全盛糸音色』
ぎおんさいけんげいしやめいかん ぜんせいいとのねいろ（文政五年（一八二二）九月再板）を翻刻紹介するものである。

細見とは、妓楼や遊女の名前、その揚げ代などを詳細に列記した遊所の案内書であり、冊子型のもので、一枚摺のものが存在する。史料公刊や研究が進む江戸や大坂の細見に比べると、京都遊所の細見は、⁽¹⁾数点がこれまで紹介されてきたのみであり、研究の遅れは著しい。そもそも京都の遊所、特に祇園の研究は、その知名度に比して大変遅れており、近年、祇園祭のねりものや、京舞井上流の研究書が刊行され、ようやく研究が進みつつあるという現状がある。⁽²⁾その研究状況を鑑みて、本史料を紹介することで、祇園研究、京都遊所研究の進展に寄与したい。

史料を紹介するまえに、祇園の歴史について概観する。⁽³⁾京都の遊廓は日本最初の公認遊廓ともいわれる天正一七年（一五八九）公認の二条柳町を端緒とするが、その後、二条城建築にともない二条柳町は六条柳町へ移

転する。六条柳町は、公家衆のあいだに「六条クルイの衆」をうみだすほど栄えるが、寛永一七年（一六四〇）、郊外の島原に移転して、以後、江戸時代を通して、島原が京都における公認遊廓となる。しかし、島原は観光都市京都にあつて、余りに郊外に位置していたこともあり次第に廃れていき、祇園などの都市中心部に近い繁華街において、茶屋に雇われた茶立女が、遊女同様の接待を行い、客を呼び込むようになっていき、遊所として発展していく。京都町奉行所はあくまで島原を公認遊廓とみなして、島原以外における茶立女らの活動の取り締まりを行ったが、本史料の売り出し文にも「寛政元酉年遊女屋株蒙御免候」とあるように、寛政元年（二七八九）一月に、祇園町同新地、二条新地、七条新地、北野上七軒」の四ヶ所に対して、一定の条件付きながらも、遊女商売を公認することになる。その後、天保の改革により、天保一三年（一八四二）、四ヶ所の公認が取り消されたりもしたが、八年後の嘉永四年（一八五二）に、「京都潤助」を名目に、祇園町同新地以下の四ヶ所における遊所経営が復活して、幕末における隆盛を迎えている。

こうした遊興都市京都における細見であるが、一七世紀から多種多様な細見が残されている吉原に比べると、残存数が大変少ない。特に一枚摺形式のものは、寛政一〇年（二七八九）版『祇園華樓遊繁栄』⁽⁴⁾、及び、寛政一三年（一八〇二）版『祇園細見めい娼都栄』⁽⁵⁾、文化三年（一八〇六）版『祇園細見めい娼都栄』⁽⁶⁾、同年版『祇園細見けい者名鑑』⁽⁷⁾、文化四年（一八〇七）版『祇園細見けい妓名鑑』⁽⁸⁾がみられる程度である。本史料は祇園の芸妓の一枚摺番付としては、三例目のものとなる。なおこれらの一枚摺の板元は、初例の寛政一〇年版の本屋善兵衛と、文化三年『祇園細見けい者名鑑』の栄里軒以外は、いずれも本史料の板元でもある叶屋喜太郎となっている。

叶屋喜太郎については、以前、指摘したように京都祇園を拠点に活動した一枚摺を得意とする板元である。⁽⁹⁾ 本史料には「京なはて」と住所表記があるが、文政八年（一八二五）刊行の麩屋源右衛門との合板『大江山千丈ヶ嶽 鬼神退治平均録』の刊記には、「京繩手古門前」とあり、京都祇園の繩手通り（大和大路と、古門前通が交わる新五軒町を拠点としていたと思われる。⁽¹⁰⁾ 本史料の匡郭右欄外には「嶋原細見記」の広告が載り、また文化一三年（一八一六）刊『諸国色里 価帳独案内』⁽¹¹⁾の巻末広告にも、「細見板元 洛東草紙問屋」という肩書きで、『都嶋原細見記』、『都祇園細見記』⁽¹²⁾『古今遊女銘譜』といった遊所関係の一枚摺を掲載しており、祇園のみならず島原の一枚刷細見も刊行していたようであるが、現物は未見である。また寛政一三年版『祇園細見めい娼都栄』⁽¹³⁾の広告には、『祇園細見げい妓名鑑』と『色里価附一夜千金』が載る。『祇園細見げい妓名鑑』は先述した通り、実際に刊行されており、『一夜千金』についても、大田南畝の蔵書目録に名前が載ることから実際に刊行されたことがうかがえる。⁽¹⁴⁾

本史料は芸妓の細見であるが、叶屋は芸妓のみならず、遊女の細見も刊行していたことは前述した通りである。また文化四年（一八〇七）には、『女浄瑠璃見立寄水辺 音曲玉珠筈』⁽¹⁵⁾という、京都の花街の女浄瑠璃の見立番付を刊行しており、さらに文化六年（一八〇九）には、武村吉兵衛と吉野屋勘兵衛と合同で、京都の遊里に関する事物や語彙を、千字文に仕立てた冊子『青楼千字文』⁽¹⁶⁾を刊行している。祇園と深い関わりをもって出版活動を行っていたことがわかる。

一枚摺ではなく冊子体の祇園芸妓の細見である『全盛糸音色』⁽¹⁵⁾の安政四年（一八五七）版巻末では板元ではなく、『遊女屋取締惣代京屋喜兵衛』の名代として「叶屋喜兵衛」の名が載っている。遊女屋取締惣代の来歴や役割

の詳細は不明だが、板元としての活動のみならず、祇園地域の遊女屋支配にも関与する存在であったことがうかがえる。「遊女屋取締惣代」である「京屋喜兵衛」は、本史料にも「きやう屋」として名前が載る、祇園末吉町の置屋京屋喜兵衛のことと思われる。なお冊子版の安政四年版『全盛糸音色』の「製本売元書林」には、叶屋喜兵衛の名前は載っていない。「叶屋喜兵衛」の出版活動は天保期以降確認できず、この頃には板元としての活動を終えていたものと思われる。

本史料の書誌事項を以下に記す。

題名…祇園細見芸妓銘鑑 ぎおんさいけんげいしやめいかん 全盛糸音色 ぜんせいいとのおねいろ

発行年…文政五年（一八二二）九月再板

体裁…一枚摺、縦三四・五 cm、横四八・八 cm 匡郭縦三三・〇 cm、横四六・〇 cm

本書は著者鍛冶の架蔵本であるが、古書店から購入したものであり、その来歴は不明である。書名は「祇園」ではなく「祇園」となっているが、江戸時代においては「祇」と「祇」は混同して使われることが多かった。例えば、冊子型の芸妓細見である『全盛糸音色』には、「祇園新地歌妓名譜」という角書がつくが、慶応二年（一八六六）版の本文冒頭の内題では「祇園新地哥妓名譜」とあるのに対して、表紙に付く外題では、「祇園新地歌妓名譜」とあることから、その使い分けに特に意味はないと思われる。

本史料に載る置屋、芸妓の数は、それぞれ一五軒、六六一名である。本史料には置屋の名称は屋号しか記載

されていないが、河内国茨田郡高柳村(現、大阪府寝屋川市長栄寺町)の真言宗御室派寺院長栄寺が所蔵する「大般若波羅蜜多經奥書」⁽¹⁷⁾に經典の寄進者として、祇園の置屋の面々の名称と所在が載っている。この經典は、文化八年(一八一二)に勸進が行われたもので、本史料の一年前の置屋の名前がわかる希有な史料といえる。また本史料刊行の一八年後の天保十一年(一八四〇)に刊行された冊子型芸妓細見の『園のはな』⁽¹⁸⁾にも、置屋の名称と町名が記載されている。長栄寺の史料よりは、一〇年近く、年代が離れるが参考になる。この二つの史料により名称、在所などを補いながら、本史料掲載の置屋の一覧を次に掲げる。

祇井筒	一五名	井筒屋定次郎カ、祇園町(「園のはな」)
三枡屋	七二名	三枡屋勇蔵、富永町(「園のはな」)
あたらし屋	二四名	新屋長兵衛、末吉町(長栄寺)
きやう屋	三六名	京屋喜兵衛、末吉町(「園のはな」)
近江屋	六〇名	近江屋重兵衛、富永町(長栄寺)、近江屋市太郎(「園のはな」)
水口屋	一六名	水口屋伊助、末吉町(長栄寺)
桜井屋	五六名	桜井屋平太郎、松湯町(長栄寺)
うち屋	五三名	宇治屋喜太郎、富永町(長栄寺)
奈良屋	四四名	奈良屋仁兵衛、末吉町(長栄寺)
井上屋	六六名	井上屋伊兵衛、末吉町(長栄寺)、井上屋吉之助(「園のはな」)

井筒屋	二八名	井筒屋伝右衛門カ、富永町(長栄寺)、井筒屋庄兵衛カ、富永町(園のはな)
万屋	三六名	万屋源兵衛、末吉町(長栄寺)、万屋嘉吉(園のはな)
松本屋	三九名	松本屋庄七、清本町(長栄寺)
京いつ、屋	九〇名	京井筒屋寅之助、富永町(園のはな)
花菱屋	二六名	花菱屋

このうち、あたらし屋については、「のちの「一力屋」という指摘もあるが、その典拠は不明である。⁽¹⁹⁾また花菱屋については、文政四年(一八二二)から同一〇年までの祇園会ねりもの番付に記載があるという指摘があり、この時期活動をしてきた置屋であることがわかる。⁽²⁰⁾

なお本史料と同時期に刊行された『花競祇園名妓百人一首』⁽²¹⁾という歌集には、本史料に名前が載る「万屋みやこ」、「松本屋かつの」といった芸妓の詠んだ和歌が載る。本史料は、そうした当時の文化都市京都における芸妓たちの文化活動を検討していく上での基礎資料にもなりうる。他の細見や、ねりもの関係資料にも目配りしながら、さらには八坂神社文書などにも着目しながら、祇園地域の研究を進めていく必要がある。

また京都大学総合博物館所蔵祇園町文書には、本史料にも名を載せる井筒屋や万屋に、一生不通養子としてやってきた少女たちの契約証文が多数残っている。⁽²²⁾今後、各所に残る同種の文書も含めて分析し、祇園地域を総合的に検討していく余地が残されていることを最後に指摘しておきたい。

本史料のここまでの解題の執筆は鍛冶が担当し、翻刻は、京都学園大学人文学部自主ゼミ「くずし字を読む

会」(代表、浦あゆみ)の一部メンバー、四回生酒井光、三回生浦あゆみ、岡颯馬、唐沢むつみ、水田健斗、山田実李、吉田茉友、二回生富岡尊羅が分担して行い、研究会にて全員で読みを確認したうえで、鍛冶が最終的な確認を行った。上記以外の研究会の参加者は、三回生の菅野妃紘、田中守登、一回生の櫻井萌々子、砂崎有実菜、能登古都音である。

注

- (1) 江戸吉原叢刊行会編『江戸吉原叢刊第七卷 吉原細見——宝永・明治——』八木書店、二〇一一年。八木敬一・丹羽謙治編『日本書誌学大系 第七二卷 吉原細見年表』青裳堂書店、一九九六年。
- (2) 岡田万里子『京舞井上流の誕生』思文閣出版、二〇一三年。福原敏男・八反裕太郎『祇園祭・花街ねりものの歴史』臨川書店、二〇一三年。八反裕太郎『描かれた祇園祭——山鉦巡行・ねりもの研究——』思文閣出版、二〇一八年。
- (3) 京都市編『京都の歴史 第五卷 近世の展開』京都市史編さん所、一九七二年。京都市編『京都の歴史 第六卷 伝統の定着』京都市史編さん所、一九七三年。今西一『遊女の社会史——島原・吉原の歴史から植民地「公娼」制まで——』有志社、二〇〇七年。森谷尅久『色里大概(十四) 祇園町』(洒落本大成編集委員会編『洒落本大成 付録』第一四卷、中央公論社、一九八一年)。
- (4) 『祇園 華楼遊繁栄』(寛政一〇年(一七九八)、本善(京都 本屋善兵衛)刊)(斎田作楽編『鴨東四時雑詞註解』太平書屋、一九九〇年)。
- (5) 『祇園細見めい娼都栄』(寛政一三年(一八〇二)、京都叶屋喜太郎刊)(前掲注4『鴨東四時雑詞註解』)。
- (6) 『祇園細見めい娼都栄』(文化三年(一八〇六)、京都叶屋喜太郎刊)(福地書店ホームページ「一枚ものコレクション」参照)。

- (7) 『祇園細見 けい者名鑑』(文化三年(一八〇七)、京都 荣里軒刊)《立命館大学アートルイサーチセンターホームページ》「浮世絵データベース」参照。
- (8) 『祇園細見 けい妓名鑑』(文化四年(一八〇七)、京都 叶屋喜太郎刊)(井之口有一・堀井令以共著『京都語位相の調査研究』東京堂出版、一九七二年)。木村恭藏「祇園花街の屋号と芸名」(木村『京ことばの生活』教育出版センター、一九八三年)三二頁。木村書によれば、本史料は木村所有。
- (9) 鍛治宏介「隠岐の長者村上助九郎と長者番付」(『隠岐の文化財』第三四号、隠岐の島町教育委員会・海士町教育委員会・西ノ島町教育委員会・知夫村教育委員会、二〇一七年)。
- (10) 『大江山千丈ヶ嶽 鬼神退治平均録』《舞鶴市糸井文庫所蔵本・立命館大学アートルイサーチセンターホームページ》「ARCC古典籍ポータルデータベース」参照。
- (11) 『諸国色里 佃帳独案内』《大阪大学附属図書館忍頂寺文庫所蔵・国文学研究資料館ホームページ》「日本古典籍総合目録データベース」参照。
- (12) 「杏園稗史目録」(濱田義一郎編『大田南畝全集』第一九卷、岩波書店、一九八九年)四五二頁。
- (13) 『女浄瑠璃見立寄水辺 音曲玉珠宮』(横山正『浄瑠璃操芝居の研究——浄瑠璃における近世的性格を中心として——』風間書房、一九六四年)七二二頁。
- (14) 『青楼千字文』(洒落本大成編集委員会編『洒落本大成』第二五卷、中央公論社、一九八六年)。
- (15) 『全盛糸の音色』(安政四年(一八五七)、京都 越後屋治兵衛・吉野屋勘兵衛・竹原好兵衛・平野屋茂兵衛刊)(新撰京都叢書刊行会編『新撰京都叢書』第九卷、臨川書店、一九八六年)四九頁。
- (16) 『全盛糸音色』(慶応二年(一八六六)、京都 吉野屋勘兵衛他五書肆刊)《京都府立京都市・歴史館所蔵和/990/30》。
- (17) 『大般若波羅蜜多經奥書』(寝屋川市史編纂委員会編『寝屋川市史』第五卷、寝屋川市、二〇〇一年)。
- (18) 『園のはな』(天保二年(一八四〇)、京都 吉野屋勘兵衛・平野屋茂兵衛・竹原好兵衛刊)(小林勇「資料紹介」『園のはな』(『親和国文』第三六号、神戸親和女子大学国語国文学会、二〇〇一年)。

- (19) 前掲注6 『京都語位相の調査研究』七二頁。
- (20) 岡田万里子 「井上流と人形浄瑠璃」(前掲注2 『京舞井上流の研究』)三七六頁。
- (21) 『花競祇園名妓百人一首』(文政三年(一八二〇)跋、秋の家律月編)《大阪市立図書館百人一首文庫所蔵(911.19) : 同館ホームページ「大阪市立図書館デジタルアーカイブ」参照》。
- (22) 鍛冶宏介 「とめちゃんはなぜ祇園にきたのか——古文書から読み解く歴史——」(『人文学のすゝめ』京都学園大 学人間文化学会、二〇一四年)。

(匡郭外右)

文政五年壬午九月再板

万一書もらし候ハ、早速板元へ御しらせ可被下候。

嶋原細見記板元

京なはて叶屋喜太郎板

(匡郭外左)

○ 舞けい事 亀甲屋ふき門弟

幼年六才ニ而

「

」

「

」

● サケノミ印シ (書込) 「 \times ヤケノミ」

△ ケンウツ印シ

「」印シ



祇園細見
芸妓銘鑑

ぜんせいいとのねいろ
全盛糸音色

全

此度げいしや名かん相改メ、御覧入申上候
当所細見之儀ハ、寛政元酉年遊女屋株蒙御
免候節より板行仕、指出し来り候。猶不相
替御求メ御覧可被下候様奉希上候。かしく。

マイアリ

マイ

小とま この ちう ふさの いく松 小十三 久が ともお 今きく しかぢ いろゑ たきお むめは あさぢ みつは

マイ

糸ヨシ

ひでは ちよは きくゑ 十九 べん 小とも 小むめ 小きく かの まつゑ 小ゆき なみ みき たつ 小ふさ

マイゴバン人形

マイ江戸ウタ

マイ玉

マイ

まきは く の ひなつる やなぎ かじの かじ松 つる介 かめ介 かめお たけゑ かのゑ かのつる くま きく 木の

マサ妹

△×△●

上ルリ玉

江戸ウタアリ

△マイアリ

琴マイ△×

まゆう

きぬは

ゆかつる

ふでまつ

小とも

ついで

ゆかゑ

さとゑ

小さゑ

小あい

八十こ

いと

小つる

うの

ゆかえ

糸ノ玉

マサ妹

同妹

マノ妹



玉

近江屋

かぢ

小さと

まき

まさの

まのゑ

うのは

かめぢ

きの

いしまつ

ひなじ

つるゑ

くがの

うたまつ

江戸ウタ

江戸ウタ△

琴

ヤケ●●△

ギ×

ともは

ゑい吉

みゆう

かつじ

みゆは

さとゑ

小さく

きくゑ

つき

八ゑ

うのまつ

つる吉

かめ

小みゆ

みき

二丁ツヅミ
マイ糸ツヅミ

色アリ
同ダン

(3段目)



桜井屋

●
△

こいか
いつの
いつゑ
小竹
みほつる
小いと
しげの
てい
せ井
りと

みよし
いろは

○

● ●

上ルリ玉

三代メ

ツルハ改メ

今つる
ゑい次
さと
きく
きぬゑ
いま
小たき
あい
小たつ
くま
まさゑ
りう
ゑだ
ひで松
かう

か

マイアリ

江戸

マイツヅミ

マイノ玉

二代メ

小ゑみ
ゑの
ひなつる
若ます
きくの
きくは
あさ
次まつ
てい
たきの
りき
そゑ
つるゑ
小いろ
きくゑ

あさお	小ひさ	矢の	ひでじ	はなゑ	らいじ	花ゑい	小まき	みさ	いつは	市松	きくまつ	つじ	さとは	むめの
		糸ノ玉					マイ	マイ	イロアリ					マイ
うぢ屋														
きみきく	きみじ	玉次	琴次			すゑ	しかつる	ゑのは	八重	さときく	きくじ	小十く	小やゑ	いろか
● △	● マイアリ		ギ		●			● △	● ● △	●		● △		琴マイアリ
まさ次	きみか	ゑい	みわの	辰じ	小いと	あさ	くがの	きみの	うた	小くま	きぬは	くまつる	此まつ	きみまつ

●
●
△

ギ

マイアリ

●
●
●
●
△

●

きくゑ

たく

きくの

まさ

市まつ

つる

てつ

みわきく

てるゑ

つるの

みや

てるの

みか

ことゑ

つるし

マイ

マイアリ

●
●
△

●
●
△

二丁ツ、ミ

マイ

マイ

こま

小きの

ゑだきく

まつゑ

つるきく

歌つる

つるゑ

てるきく

とみよ

うた吉

ことつる

くがゑ

きぬじ

まさつる

つか

二丁ツ、ミ

コトニ妹

(4段目)



玉

ギノ玉

玉

●
△

八ゑ

小ふさ

くまの

ことの

奈良屋

つる松

こま吉

小いし

つるも

くまこ

来じ

はま吉

くま

● ギ
江戸ウタ

かじの
うたゑ
つる子
おぶん
つるお
つるは
来三
おとゑ
みや吉
正吉
小りう
つる吉
かじ松
はるゑ
小十九

十九
こまこ
小うの
小りやう
小らい
八ゑ吉
むめは
じう
力松
むめ
ゑい
みや
きみ
きだ
さく

ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ
ギ



井上屋

はつの
小まつ
ひで吉
はまじ
みよし
さね吉
くま
三吉
十吉
いわきく
ふさの
とも
さだ



むめ吉
 きみゑ
 うた吉
 小くま
 きくの
 つるむめ
 きみじ
 うた松
 さとは
 よりか
 むめじ
 小弁
 八重つる
 ふさぎく
 べん

●マイアリ



マイアリ

千里妹

あ井
 むめお
 いろは
 ふさよ
 てるじ
 つる花
 きみは
 ゑもん
 千代つる
 きく
 さきの
 きみつる
 ていじ
 のしは
 あやの

琴アリ

ギ ギ

むめは
 むめきく
 さとつる
 小さの
 さき
 ともゑ
 くまきく
 ひなじ
 つるきく
 つるの
 つるは
 この吉
 小ゆき
 矢な
 きと



よろつ屋

●
△
玉

△
糸
ヨシ

みやこ
かう
まつゑ
みや
小りつ
小のぶ
とら
小なみ
まさお
いそゑ
ゑつは
つる
イソへ妹
小リツ妹
りき

エツハ妹

●

ギ
三小市妹

ゑつゑ
小ゆう
ことこ
ついの
うた松
ゑみ
つぎゑ
まつの
みつ
さきの
十市
みよし
みわの
みお
小まき

ギ



●
△

ギ
△

△

ギ

琴

松本屋

いわの
小とら
小でん
久きく
小つる
つるは
ゑい吉
いそ吉
ふさじ
小のぶ
八重松
つる今
りき
まさの



フリ

ことじ 八尾 とら せい むめの 小まき あさ吉 かつの つねは らく まさじ さとの そまゑ 小なみ そまじ



フリ

セキ妹

セキ妹

二丁ツ、ミマイ

せき 小むめ 小とら てるは 小せき 市鶴 せきじ きせ 来は 来じ ぶさつる ぶくゑ きよの ゑだ むめ松



京いつ、屋

(6段目)



●△マイアリ



●△ウタヨシ



△マイアリ



あさの

むめ

そま鶴

さきゑ

小つる

小のぶ

さきの

こまこ

あをば

まさこ

つい

ゑい

ギ ● △	江戸ウタ ●	●	琴アリ	●●●●										
ばいかう	か う	てるは	ぬいは	しかつる	あさを	いとゑ	かよは	みそゑ	あ 失	つる代	つるきく	はつこ	八ゑ松	小 さゑ
	マイニ丁ツ、ミ		マイニ丁ツ、ミ		マイニ丁ツ、ミ	七化アリヤナギ妹	ギ		ギ	ギ	ギ ● △			ギ
はま吉	はまこ	つ ま	つま吉	とせこ	とせえ	まり	小 吉	小えい	すみ吉	まさ吉	むめ吉	みやきく	む め	つね吉
	⊗ ●●					糸吉ウタノ玉			イロアリ			マイニ丁ツ、ミ		マイニ丁ツ、ミ
小そゑ	くがこ	小矢の	きぬえ	いわこ	よりこ		花菱屋		ふさこ	まさきく	かめこ	つるこ	たけゑ	まつゑ

江戸
ウタノ玉

ギ



ギ

小弓
江戸
ウタ

い
お

ぢ
う

まさ
吉

八
ゑこ

さ
きゑ

ひ
さゑ

よ
りゑ

小
ゑだ

小
みつ

ふ
さこ

は
る

く
の

み
つゑ

あ
さを

は
る吉

み

吉

才

辰

矢

こ

吉

こ